

令和5年度 環境保全報告書

<目次>

- ① 当該年度の重点取組み目標・計画の実施状況
 - ア. 地球温暖化対策（温室効果ガスの抑制）
 - イ. 省エネルギー活動の推進
- ② 公害防止対策に係る報告
 - ア. 目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策
 - イ. 2023年度 ばいじん等測定結果
 - ウ. 2023年度 排出水の汚濁状態測定結果
 - エ. 2023年度 騒音測定結果
 - オ. 公害関係測定計画
- ③ 地球温暖化対策に係る報告
 - ア. 今年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量
 - イ. 当該年度の計画達成状況
 - ウ. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況
- ④ 公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告
 - 今年度の環境保全活動に係る具体的実施内容

① 当該年度の重点取組み目標・計画の実施状況

ア. 地球温暖化対策（温室効果ガスの抑制）

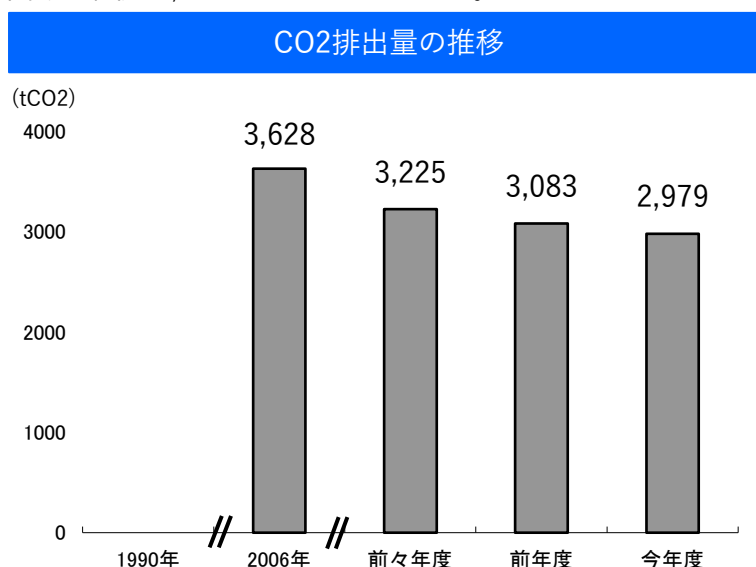
気候変動（春から秋にかけて気温の高い状態）の影響を受けたものの、新型コロナウイルス5類感染症移行や生産活動の正常化が進む中、全員が一丸となり省エネ活動に取り組めました。神戸工場のCO2排出量は、前年度と比較して104トンの減少となる2,979トンとなり、購入電力は96トン、空調用のガスは8トンの減少となりました。引き続き、パナソニックグループの環境長期ビジョンに則って、2030年の工場CO2排出量の実質ゼロ化に向けて取り組んでまいります。

項目		1990年	2006年 (基準年)	前々年度	前年度	今年度
生産高(*)						
CO ₂ 排出量	ボイラー (トン)	工場 立ち上げ中 操業なし	799	495	494	486
	電力購入 (トン)		2,829	2,730	2,589	2,493
	合計 (トン)		3,628	3,225	3,083	2,979
工場排出量原単位 (*)						

(*)生産高、原単位の数値は 社外秘といたします。

<CO2換算係数> ガス 2.29 → 2.24
電力 0.54 → 0.487

神戸工場のCO2排出量の年度別推移は、下のグラフの通りです。



イ. 省エネルギー活動の推進

今年度も引続き、エネルギー総量の抑制を図るために夏・冬2回の省エネ通達を発信し、具体的には自動販売機の間引きの拡大、ウォータークーラーの夜間停止、洋式便座の温度設定オフ、従業員のみのエレベータ利用の自粛など、地道な省エネ活動を継続しました。

春から秋にかけて気温の高い状態が続いたにも関わらず、新型コロナウイルスの5類感染症に移行で扉の開放などの対応が不要になったことや部材調達の影響が緩和されたことにより生産活動が正常化したことを受けて、前年度と比べて減少となりました。

今後も総合的な省エネ活動に取り組み、CO2排出量および生産高原単位のいずれも改善するよう努力いたします。

◎ ガス、電力、用水の使用量と原単位

項目		1990年	2006年 (基準年)	前々年度	前年度	今年度
生産高(*)						
ボイラー (ガス)	総量		349	216	221	217
	原単位(*)					
電力購入	総量		6,900	5,056	5,316	5,120
	原単位(*)					
用水	総量		35	24	21	19
	原単位(*)					

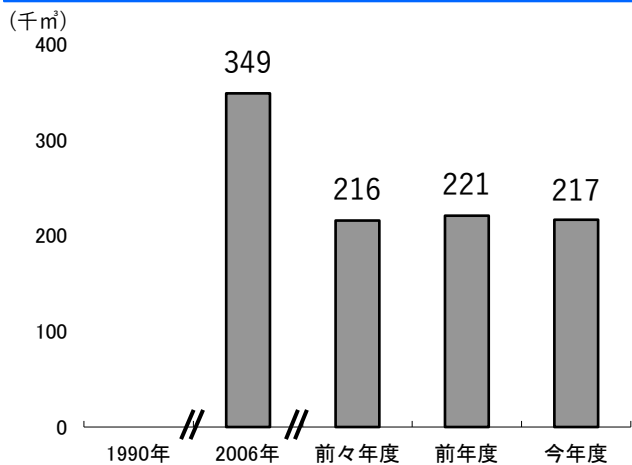
(*) 生産高、原単位の数値は社外秘といたします。



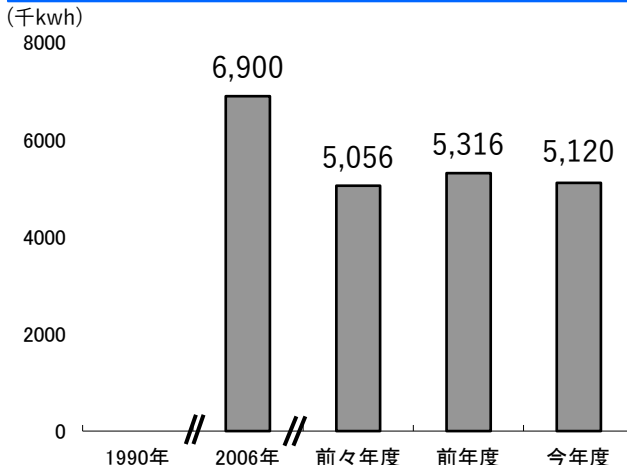
パナソニックグループでは、2006年度を基準年度として二酸化炭素排出量削減の取組みを推進しています。

◎年度別推移は、下記のグラフにて表記しました。

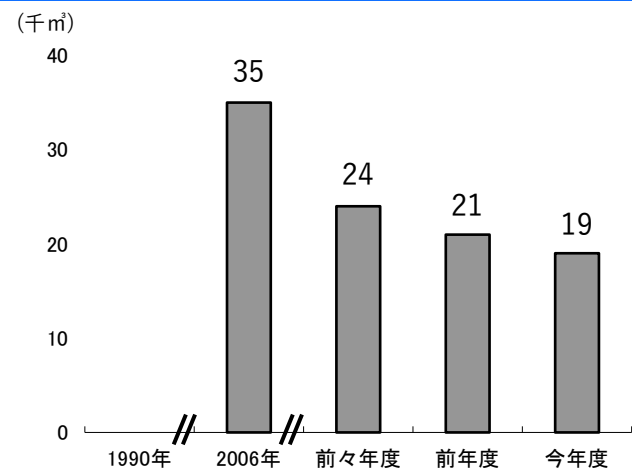
ガス使用量の推移



電力使用量の推移



用水使用量の推移



② 公害防止対策に係る報告

ア. 目標達成状況と目標達成のために講じた措置・対策

項目	目標項目	目標達成状況	目標達成のために講じた措置・対策 (目標の達成状況の確認手段を含む)
大気汚染防止対策			
	ばい煙(ばいじん、酸化物等)、 粉じん、有害大気汚染物質の排出 濃度に関する自主基準順守	◇ 自主基準を順守した。	◇ 「公害関係測定計画」に基づく測定に より自主基準の順守状況を確認した。 (測定結果は次ページの通り)
水質汚濁防止対策			
	公共用水域に排出する排出水の 水質管理及び汚濁負荷の総量管理	◇ 自主基準を順守した。	◇ 「公害関係測定計画」に基づく測定に より自主基準の順守状況を確認した。 (測定結果は次ページの通り)
	地下水汚染の未然防止	◇ 水質汚濁防止法の「有害物質」 (※注1) は使用していないが、定 期的に測定し状況を把握する。	◇ 「公害関係測定計画」に基づく測定を 行い結果を確認した。
騒音防止対策			
	騒音発生の未然防止	◇ 自主基準を順守した。	◇ 「公害関係測定計画」に基づく測定に より自主基準の順守状況を確認した。 (測定結果は次ページの通り)
振動防止対策			
	振動発生の未然防止	◆ 「指定地域」(※注2) では無いた め対象外。	
悪臭防止対策			
	悪臭発生の未然防止	◆ 「特定悪臭物質」(※注3) の使用 が無いため対象外。	
土壌汚染対策			
	土壌汚染の未然防止	◆ 「特定有害物質」(※注4) の使用 が無いため対象外。	
産業廃棄物対策			
	法令等の規制を順守	◇ 法令等に定める産業廃棄物管理票 (マニフェスト)制度、廃棄物の保 管・処理基準を順守した。	◇ 法令等に定める産業廃棄物管理票 (マニフェスト)制度、廃棄物の保管・処 理基準を順守し、法定の記録・報告を 実施する。
	廃棄物の発生抑制・再利用	◇ 産業廃棄物の再生利用、再資源化等 の有効利用及び減量化に関する計画 を策定し、その内容を実施した。	◇ 計画を策定し、その内容を実施した。 ◇ 計画の内容、取組みの結果を環境事務 局が確認した。 ◇ 他の事業所との連携を含め、ゼロエ ミッション構想の実現に向けた調査・ 取組みを推進した。

(※注1) 有害物質とは、水質汚濁防止法第2条第2項第1号に規定する物質。

(※注2) 指定地域とは、振動規制法及び兵庫県条例に基づき神戸市長が指定した地域。

(※注3) 特定悪臭物質とは、悪臭防止法 第二条第一項 の政令で定める物質。

(※注4) 特定有害物質とは、土壌汚染対策法第2条第1項に規定する物質。

イ. 2023年度 ばいじん等測定結果

結果：下表の通り、全て達成しました。

対象設備：冷温水発生機No.1/No.2

項目	測定箇所：煙道			測定値（※暖房運転なし）			
	単位	法規制値	自主基準	No.1（冷暖房用）		No.2（冷暖房用）	
対象設備							
測定日				7/26	11/27	7/26	※
測定時刻				11:16	10:30	9:45	※
窒素酸化物濃度	ppm	150	90	51	56	24	※
窒素酸化物濃度（酸素換算濃度）	ppm	150	90	48	56	32	※
ばいじん濃度	mg/m ³ N	50	30	ND	測定せず	ND	※
判定（○：達成 ×：未達成）				○	○	○	※

ウ. 2023年度 排出水の汚濁状態測定結果

結果：下表の通り、全て達成しました。

排水口名：集中排水口					7/18		
項目	管理目標値 自主基準値 [mg/l]	目標値の根拠		定期測定 の実施	測定結果	判定 ○:達成 ×:未達成	
		神戸市条例 [mg/l]	一律排水基準 [mg/l]				
（有 害 物 質 項 目）	カドミウム及びその化合物	0.024以下	0.03以下	1以下	○	ND	○
	シアン化合物		0.3以下	1以下		-	
	有機燐化合物	0.24以下	0.3以下	1以下	○	ND	○
	鉛及びその化合物	0.08以下	0.1以下	0.1以下	○	ND	○
	六価クロム化合物	0.08以下	0.1以下	0.5以下	○	ND	○
	砒素及びその化合物	0.04以下	0.05以下	0.1以下	○	ND	○
	水銀及びその他の水銀化合物	0.004以下	0.005以下	0.005以下	○	ND	○
	アルキル水銀化合物	検出 されないこと	検出 されないこと	検出 されないこと	○	不検出	○
	ポリ塩化ビフェニル（PCB）		0.003以下	0.003以下		-	
	トリクロロエチレン		0.1以下	0.3以下		-	
	テトラクロロエチレン		0.1以下	0.1以下		-	
	ジクロロメタン	0.16以下	0.2以下	0.2以下	○	ND	○
	四塩化炭素		0.02以下	0.02以下		-	
	1, 2-ジクロロエタン		0.04以下	0.04以下		-	
	1, 1-ジクロロエチレン		1以下	0.2以下		-	
	シス-1, 2-ジクロロエチレン		0.4以下	0.4以下		-	
	1, 1, 1-トリクロロエタン		3以下	3以下		-	
	1, 1, 2-トリクロロエタン		0.06以下	0.06以下		-	
	1, 3-ジクロロプロペン		0.02以下	0.02以下		-	
	チウラム		0.06以下	0.06以下		-	
	シマジン		0.03以下	0.03以下		-	
	チオベンカルブ		0.2以下	0.2以下		-	
	ベンゼン		0.1以下	0.1以下		-	
	セレン及びその化合物		0.1以下	0.1以下		-	
	ほう素及びその化合物		10以下	10以下		-	
	ふっ素及びその化合物	6.4以下	8以下	8以下	○	0.12	○
	アンモニア、アンモニウム化合物		-	100以下		-	
1, 4-ジオキサン		0.5以下	-		-		
ダイオキシン類(pg-TEQ/L以下)		10以下	-		-		
（生 活 環 境 項 目）	フェノール類含有量	0.8以下	5以下	5以下	○	ND	○
	銅含有量	2.4以下	3以下	3以下	○	0.03	○
	亜鉛含有量	1.6以下	2以下	2以下	○	0.12	○
	溶解性鉄含有量	8以下	10以下	10以下	○	0.09	○
	溶解性マンガン含有量	8以下	10以下	10以下	○	0.02	○
	クロム含有量	1.6以下	2以下	2以下	○	ND	○
	水素イオン濃度(pH)	5.4~8.6	5.0~9.0	5.8~8.6	○	7.3	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	※1)傾向管理	2000以下	160以下	○	160	○
	化学的酸素要求量(COD)	※1)傾向管理	-	160以下	○	-	
	浮遊物質量(SS)	※1)傾向管理	2000以下	200以下	○	160	○
	ノマルヘキサン抽出物質(鉱油)	4以下	5以下	5以下	○	ND	○
	ノマルヘキサン抽出物質(動植物油)	120以下	150以下	30以下	○	12.8	○
	大腸菌群数		-	3000個/cm ³		-	
窒素含有量		1200以下	120以下		-		
リン含有量		160以下	16以下		-		

※1)傾向管理：神戸市条例の排除基準が大きく、オーバーする事が考えにくいいため、傾向管理とする。

エ. 2023年度 騒音測定結果

結果：下表の通り、全て達成しました。

条例 (dB)	70	70	70	60
自主基準 (dB)	63	63	63	54

	騒音レベル <測定：9/19>				判定
	朝	昼	夕	夜	
コニカミノルタとの境界	48	52	49	49	○
南側道路との境界	44	48	54	48	○
隣接事業部(*)との境界	49	50	55	51	○

○：達成
×：未達成

(*)パナソニック株式会社 ぐらしアプライアンス社 キッチン空間事業部 調理機器BU IHクッキングヒーターSBU 神戸工場

オ. 公害関係測定計画 (2023年度実績)

	測定対象	測定頻度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			大気汚染防止対策	冷温水発生器No.1	2回/年				○				○	
	冷温水発生器No.2	1回/年				○								
水質汚濁防止対策	下水排水測定	1回/年				○								
	地下水測定	1回/年				○								
騒音防止対策	コンプレッサー 排気ファン など	1回/年						○						

※測定はISO14001の基準等に規定された方法にて実施し、同基準に基づき結果の判定を行なった。

振動防止対策	なし
悪臭防止対策	なし
土壌汚染対策	なし
産業廃棄物対策	なし

③ 地球温暖化対策に係る報告

ア. 今年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単位	排出係数 (*)	排出量 t - CO2	温暖化 係数 CO2	合計 (CO2換算)
燃料の使用	都市ガス	217	千Nm ³	2.24	486	1	486
電気事業者から供給された電気の使用	一般電気事業者	5,120	千kwh	0.487	2,493	1	2,493
合 計					2,979	-	2,979

(*)

係数は パナソニックグループ全体の運用値を使用

イ. 当該年度の計画達成状況

温室効果ガス	削減目標	排出量		削減率	
	今年度 計画値	基準年度 (2006年度)	今年度 実績値	基準年度比	今年度計画比
二酸化炭素	3,100	3,628	2,979	17.9%	3.9%
合計	3,100	3,628	2,979	17.9%	3.9%

↓

パナソニックグループでは、2006年度を基準年度として二酸化炭素排出量削減の取組みを推進しています。

ウ. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	事業所での節電	節電	休み時間等に消灯	徹底	実施率 100%
			設備運転の効率化	液化窒素併用	実施率 100%
2	事業所での燃料使用量の削減	燃料使用量の削減	冷暖房の適正化	最適化 チューニング	夏季:28°C 冬季:20°C

④ 公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る報告

今年度の環境保全活動に係る具体的実施内容

	分野	項目	細目	目標	実施状況
1	再生可能エネルギー導入の推進	太陽光発電設備の設置・稼働		使用電力の約15%を再生可能エネルギーへ置換え	24年3月1日より稼働開始
2	自動車対策	安全講習会	パナソニック保険サービスビデオ視聴	安全とエコの両立認識	12/15～1/15 約300名視聴
3	プラスチックに係る資源循環等の推進	製品梱包材をプラから環境配慮型に転換など		製品梱包プラ材の削減 ※2016年度製品と23年度新製品の比較	梱包材プラの使用量 60%減
https://connect.panasonic.com/jp-ja/products-services/pc/env					
4	事業所等での廃棄物の適正処理・減量	上質紙、一般ごみ等の分別回収	専用収集ボックス活用で分別徹底	全職場に設置	実施率100%
		コピー紙の使用削減	両面コピーの徹底	徹底	概ね実施
			ミスコピー紙の再利用あり	徹底	概ね実施
		廃棄物発生量	実績把握	実績把握	把握の実施
5	事業所等での再生製品等の使用	グリーン購入の実施	筆記用具及び用紙類全種	100%	筆記用具及び用紙類全種
		再生紙の使用促進	実施率100%	100%	実施率100%
		プリンタトナーカートリッジのリサイクル	全部門で実施	全部門で実施	全部門で実施
6	特定フロン等使用量の削減	特定フロン使用機器の点検	(定期) 1回/3年 (簡易) 4回/年	(定期) 該当品済 (簡易) 4回/年	実施率100%
		特定フロン使用機器の適正廃棄	フロン回収の徹底	徹底	実施
7	環境管理システムの充実	ISO 14001 外部機関による認証維持	認証維持	認証維持	認証維持
		内部監査の実施	1回/年実施	1回/年	9/13 実施
8	脱炭素経営の推進	2030年までに生産活動に伴うCO2排出量をゼロにする		2030年まで神戸工場CO2排出量ゼロ化	目標達成に向けたロードマップの作成
9	事業所等での節水	節水	実績把握	実績把握	把握の実施
10	従業員教育	環境eガイド受講	環境月間教育として6月に開催	1回/年	250名 (100%受講)
11	地域社会への参画	事業所周辺の清掃活動	西神工業会クリーン作戦参画	1回/年	10/5(木) 10名参加
		須磨海岸ビーチクリーンアップ作戦	1回/年実施 (10名以上の参加)	1回/年	4/30(日) 9名参加
					10/1(日) 24名参加